

## 第 37 回日本自殺予防学会総会を終えて

第 37 回日本自殺予防学会総会大会長、秋田いのちの電話理事長、メンタルクリニック秋田駅前院長

稲村 茂

第 37 回日本自殺予防学会総会は秋田市の秋田県総合保健センターにて平成 25 年 9 月 13 日から 15 日に開催されました。秋田県は自殺率が 18 年間全国 1 位を続けていますが、自殺予防活動も活発に行われており、最高値の年に比較して約 40% の減少が認められています。そうした背景もあってか、総参加者は約 650 名と盛会でした。大会テーマは秋田県内で行われている自殺予防が民間団体、行政、大学がそれぞれの立場で活動しながら連携している現状を踏まえ、「多様な自殺予防のあり方を模索する」としました。

1 日目は、夕方から大野裕先生、張 賢徳先生、大塚耕太郎先生による恒例の学会認定研修会が開催されました。2 日目の午前中のシンポジウムは自殺予防の原則を踏まえた上で対策を立てていくことをテーマにし、「自殺未遂者の再発防止に対するケースマネージメントの効果」(ACTION.J) の研究が河西千秋先生らから報告されました。午後の大会長講演では秋田県の長年に渡る自殺予防の歴史とその広がりを紹介させていただき、地域モデルと医療モデルが両輪となって多様な活動を展開していることを報告しました。秋田県では自殺予防活動を行っている様々な立場の人が、その活動を通じて自分の日常の生き方を問うているように思われ、これが活動を継続する原動力になっていると考えます。

引き続き行われた県民講座では、まず秋田県男鹿市の「なまはげ太鼓」が披露され、躍動的な生命感に満ちた演奏が会場を包みました。その後、秋田市の大森山動物園長が動物の親子関係の営みのあり方を多くの写真を交えて講演し、親子の積極的な相互の関わりが「いのちをつなぐ」ことを強調しました。さらに 3 人の演者が地域の連携や被災地のいのちをつなぐ活動を報告しました。

3 日目の午前のシンポジウムは大会テーマに沿って秋田県内の多様な自殺予防活動が幅広く紹介されました。経済相談の「蜘蛛の糸」、「なまはげの会」、当事者のサロン活動の「ユックリン」、秋田県医師会のかかりつけ医によるうつ・自殺予防の初期治療と専門医との連携、ゲートキーパーであるメンタルヘルスサポーターの紹介、秋田県の行政としての取り組みなど、あらゆる分野に渡る多様な活動報告が具体的になされました。午後は第 3 回日本自殺予防シンポジウムと合流して開催され、「心の傷つきと回復」をテーマとしてレジリエンスの視点から高橋祥友先生の基調講演、駐日 EU 代表部やグリーンケアの視点からの発表が行われました。

一般演題は口頭発表が 51 題、ポスター発表が 5 題ありました。学校教育、遺族支援、地域の自殺予防対策、啓発活動、救急、未遂者支援などの広範な内容が発表されました。

ランチョンセミナーは 4 題で吉村玲児先生（自殺に関する生物学的マーカー）、森 隆夫先生（精神科病院の自殺予防活動）、坂本薫先生（気分障害）、白川 治先生（抗うつ薬）、などの幅広い講演がなされました。いずれの会場も盛会で、参加者が入りきれない会場もありました。

本総会は「秋田いのちの電話」をはじめとする地元の自殺予防の各団体のボランティアが主力になって準備、運営されました。活動の過程で今まで以上に相互の交流が深まり連携が密になったこと、全国の活動と出会うことで自分たちの活動の意義を再確認でき、幅広い視点を持てるようになったことが何よりの収穫でした。また自殺予防とは生きること問い直していく営みであり、つながりの中でいのちが生かされていること、傷つきから回復していく希望を持ち続けていくことの重要性をあらためて感じる事ができたと考えます。